



TOEIC® Programで未来の可能性を広げる

# NEWSLETTER

ニュースレター

インタビュー

ispace EVP 日達佳嗣さん

仲間たちと再び月を目指します。

多様性あふれる職場では英語が共通言語。



未来を  
変えたい  
人に。

Diversity

Welcome all people into a fair and equal workplace.

Integrity

Consistently deliver in a transparent and ethical manner.

## Contents

[特集] 神田外語グループ／神田外語学院  
語学教育のパイオニアが考える  
AI時代にこそ言語がつなぐ、人と社会の未来  
卒業生インタビュー  
学校での学びと切り拓いた道

- ▶ TALK! わたしが英語を学ぶわけ  
「自分に合う学習スタイルのを見つけ方」
- ▶ My Career Story  
ispace EVP 日達 佳嗣さん
- ▶ HOT WORD  
“upcycle”

語学教育のパイオニアが考える

AI時代にこそ言語がつなく、  
人と社会の未来

外国語を軸に多角的な教育機関を運営する神田外語グループ。出発点となった神田外語学院は約70年にわたり、語学教育機関のパイオニアとして多様な人材を生み出し続けています。AIの進展により翻訳ツールが充実する現在において、言語を身につけることの意義とは？そして、これからの社会に求められる人材とは？神田外語グループを運営する学校法人佐野学園、佐野元泰理事長にお話をうかがいました。

AI時代だからこそ求められる  
コミュニケーションと語学の力

数年前、世の中でAIが認識され始めた頃に、英語をはじめとする語学力や語学学習の必要性について懐疑的な声が上がりました。しかし私は、AI時代だからこそ語学力は重要だと感じています。

以前の語学教育のゴールは「知識を覚えて使いこなすこと」でしたが、今やそのような一連の作業はAIに置き換えられます。では今、何が求められるのかというと、「コミュニケーションするセンス」です。今後さらに本格化していく日本の多文化共生社会において、様々な課題に取り組んでいく必要が出てくると思います。その解決にはコミュニケーションが欠かせず、ベース

となるのはやはり言葉です。外国語を学ぶことは、社会的なバックグラウンドを含めて、相手の考えを汲みながら違いを理解するのに、最も優れているのではないのでしょうか。

今や、たいていの外国語であれば、AIが瞬時に翻訳してくれます。しかし、AIが提案する複数の表現のなかからどれを選ぶのかは別の問題です。これはAIを使いこなすロジック、相手はどう感じるかといった感覚、バックグラウンドへの理解がないと難しいものです。さらに自分なりの思考をもって解決しなくてはならないとなると、より高度な語学力が求められるかもしれません。同じ言葉でも、国籍などによって伝わり方が変わるのであれば、相手の文化を意識した表現を選ばなくてはならないのです。このAI時代、相手との違いを知り、どう自分で考え、実行していくか——言葉、思考、行動がとて重要になってくると思います。

「3つの軸」を大切に  
これからの日本を担う人材を育てる

私たちの建学の理念は「言葉は世界をつなぐ平和の礎」です。戦後、これからの日本を担う若い人たちが国際的に活躍するための支援をしようと創立されました。現在、大学も含めて3つの教育機関と2つの関連企業を展開していますが、教育を通じて学生が社会に出ていく自信を育み、卒業後により良い人生を歩むための素地を整えられるよう支援していきたいと考えています。

私たちの教育の軸となるのは、先ほどお話しした、言葉、思考、行動です。

神田外語グループ(佐野学園)

佐野 元泰 理事長

学習院大学経済学部経済学科卒業後、学校法人佐野学園に入職。語学研修施設ブリティッシュ・ヒルズの取締役副支配人を経て、アメリカ・モンレー国際大学でMBAを取得。執行役員、理事などを経て、2010年より現職。



まずコミュニケーションのベースである「言葉」。特に英語力に関して、学生のモチベーションを上げるには、学びを可視化できるTOEIC Programが極めて有用なシステムだと思います。スコアが上がれば英語力に対する自信だけでなく、自己肯定感の向上にもつながるからです。神田外語学院では、卒業の必修要件としてTOEIC L&Rを定期的に受験してもらうようにしています。

そして、AI時代において、より重要になってくる「思考」。本校は国内や海外の大学への編入学が可能なコースを設けていますが、学生たちの目指す学部は様々です。そこで、進路に合わせた専門知識を教えるよりも、学び方や課題解決のプロセスに重点を置いて指導しています。知識にもとづく処理はある程度までAIでまかなえます。これからの時代に必要とされるのは、物事の成り立ちや過程を結び付けて解決策を見出す力です。すなわち、自分で考え、社会の中で活かしていくための実践的な教養です。ゴールに達するためのプロセスを学ぶことは、社会に出た際にも困難を乗り越える力になるのではないかと思います。

「行動」については、本校を例に挙げると、企業でのインターンシップや、海外の公館でサポート業務を行う外務省在外公館派遣員制度\*などへの挑戦です。ありがたいことにインターンシップには多くの企業からお声がけをいただいております。学生たちはこの取り組みを通じて社会の仕組みの一端を学んでいます。また、在外公館派遣員として働くことは、語学力のみならず実務力、国際対応能力の向上につながると思います。2026年1月時点で神田外語学院および神田外語大学の在校生・卒業生の274名が在外公館派遣員の試験に合格し、世界を舞台に活躍しています。

「授業のなかだけで教育が終わってはいけない」というのが私たちの考えです。本人の選択肢になかったことにも挑戦する機会を与え、個々の可能性を広げたい。その一心で教育にあたっています。

“学び方”を知ってもらうことで  
どんな道にも対応し、結果を出せる人に

これからの社会は、国籍や文化の違いを超えて、多様な人々が共に生きる時代へと進んでいきます。そのなかで若い世代を日本で教育し、世界へと送り出すと同時に、日本国内における多文化共生社会の担い手となる人材を育成する——その両軸を担う教育機関となることこそが、私たちの次の使命であると考えています。社会環境の変化に応じて教育の中身を変えていくことは容易ではありませんが、言葉を軸としながら、時代に合わせ柔軟に発展していく教育を作り上げていくことが大きな目標です。

そして最終的に、私たちは生涯学習者を育てたいとも考えています。語学学習の成功体験を通じて“学び方”を習得できれば、たとえ進路を変えたとしてもそのスキルを応用できるでしょう。こう学べばきっと成功する、結果を出せる、という自信を持ち、学習を継続できることが学びの本質だからです。本校の卒業生たちにはこのスキルをもって、様々なことに挑戦し続けてもらいたいですね。

神田外語グループ×IIBC 共催セミナーを開催しました

2025年12月20日(土)に神田外語学院にて、高校や大学の英語教員を対象に「英語学習者のやる気を育む英語教育実践」と題したセミナーを開催。神田外語学院の教員によるTOEIC Programを活用した模擬授業を行い、学生のモチベーションや英語力を向上させる具体的な工夫や指導のヒントが紹介されました。



\*外務省在外公館派遣員制度：語学力を活かし、海外の日本国大使館や総領事館などの公館の後方支援的業務を担う者を派遣する制度。任期は原則2年。

## 神田外語学院/神田外語大学卒業生

# 学校での学びと切り拓いた道

神田外語学院を経て神田外語大学で学び、英語力を活かして現在は外務省で活躍している石原美美香さん。在学中に得られた学びや卒業後の進路選択、現在のお仕事についてお話をうかがいました。

いわゆる高校の「英語科」に通っていたものの、私自身、当時はまったく英語に向き合えていませんでした。志望大学には残念ながら受からず、それでも何かしら学びを続けようと、神田外語学院に進学しました。将来のビジョンもなく、ぼんやり過ごしていたのを覚えています。

1度目の転機になったのは、学内で見かけたポスターでした。冬のイギリス短期留学です。何かを掴みたい想いで挑戦を決意。高校時代からそれなりに英語をやってきたつもりでいたのに、まったく英語が話せない自分に愕然としました。その絶望と悔しさが、初めて本気で英語と向き合うきっかけになりました。

帰国後、必死に勉強に取り組んだことで、TOEIC L&Rのスコアが500点程度から860点まで伸びるとともに学びへの意欲が高まり、姉妹校の神田外語大学への編入学へとつながりました。大学在学中に今度はアメリカの大学に1年間の“リベンジ留学”をして、ビジネスやホスピタリティを学び、現地企業でインターンも経験しました。海外で働くことへの憧れが、この頃から具体的にようになってきたと思います。

就職活動では海外展開している企業を中心に受けていましたが、友人が在外公館派遣員を目指しており、学内で実施している対策講座に軽い気持ちでついていったのが私の2度目の転機になりました。担当の先生の熱い想いに感化され、活躍する先輩方の話を聞いているうちに、「この仕事を絶対にしたい!」と感じました。夢中で勉強しましたが、結果は不合格。強い悔しさを抱きながらIT企業に入社しました。

会社では英語力を買われて、海外企業との協業プロジェクトに抜擢され、やりがいのある毎日でした。上司や同僚にも恵まれ充実していたのですが、心のどこかで「私の人生、本当にこのままでいいのか」という思いがくすぶっていました。そして社会人3年目に、在外公館派遣員への再挑戦を決意。当時の先生に報告した際、「必ず戻ってくると思っていた」と言われ、改めて自分の気持ち固まりました。

半年の猛勉強の末、念願の在外公館派遣員試験に合格しましたが、内定先は約80カ国の中で唯一希望していなかったインドだったんです。意を決し赴任したものの、インドでの日々は想像以上に大変でした。日本では考えられないようなことが日常茶飯事で、キッチンが爆発したり、ハトが家にすみついたり。仕事でも、事前にしっかり担当者と調整したはずなのに、当日現場に行くと「あいつは村に帰ったよ!」と言われるような日々……。とまどいながらも「やれることをすべてやりきろう」と決め、次第に状況を受け入れられるようになりました。何が起きても動じない心と、その場で瞬時に判断して対応する力が鍛えられたと思います。

在外公館派遣員の任期は2年間でしたが、後半は積極的にいろいろな業務に挑戦させていただきました。国際会議で日本の要人をサポートしたとき、無事に終了して現地スタッフが涙を流して喜んでくれたのを見て、この仕事のおもしろさを感じました。

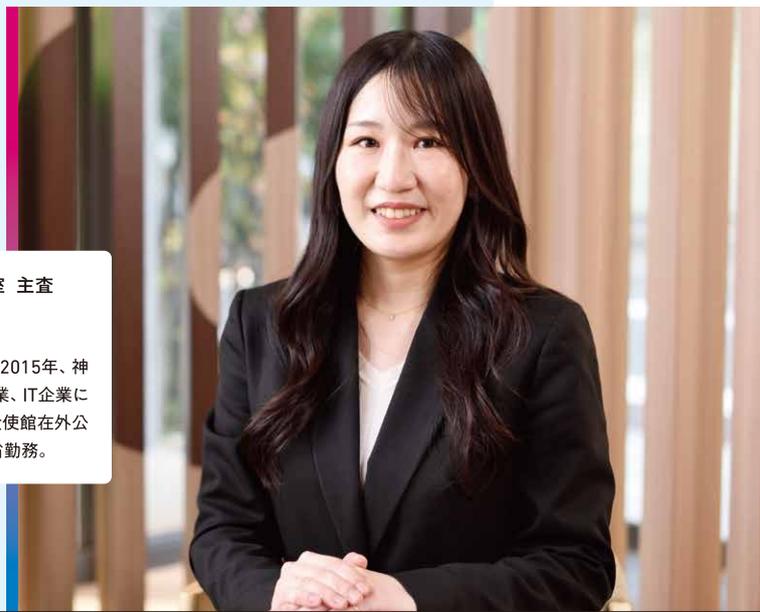
赴任中に外務省の採用試験を受け、現在は本省で外国賓客の訪日調整を担当しています。まさに今、学生時代に培った英語力と異文化理解が、日々の業務で活かされています。

最初は何も目標がなく、ぼんやりしていた私に、英語と真剣に向き合うきっかけを与えてくれたのが神田外語学院でした。そして大学ではさらに学びを深め、本当にやりたいことを見つけることができました。また、TOEIC L&Rのスコアは、就職や転職での私の大きな武器になりました。後輩の皆さんには、今うまくいかなくても決してあきらめないでほしいと伝えたいです。失敗も含めた経験がすべて、必ず未来の自分へとつながっていきます。

外務省 大臣官房要人往来支援総括官室 主査

石原 美美香さん

2012年、神田外語学院 英語専攻科卒業。2015年、神田外語大学 国際コミュニケーション学科卒業、IT企業に入社。2018年より2年間、在インド日本国大使館在外公館派遣員として勤務。2020年4月より外務省勤務。



# TALK!

わたしが英語を学ぶわけ

[ 第4回 トークテーマ ]

## 自分に合う学習スタイルのを見つけ方

様々な英語学習者の実態を探る連載の4回目。今回登場するのは、若きアスリート。競技を通じて英語を身につけ、世界で活躍するという共通点がある二人が、英語力向上のコツや、自分に合う学習法について話し合いました。



ブレイキン選手 村上 結菜さん (20歳)

英語学習に目覚めた時期：中学1年生  
5歳からヒップホップダンスを始め、小学6年生でブレイキンに転向。  
現在は早稲田大学に在学しながら、世界各地の大会に出場している。



サーフィン選手 友重 リキさん (16歳)

英語学習に目覚めた時期：小学3年生  
0歳から海に親しみ、小学1年生でサーフィンを開始。現在はプロジュニア大会でのアジアトップを目指す高校生。両親もサーファー。

**村上** 私は中学1年生のとき、ブレイキンの台湾大会に出場するために初めて海外遠征をしました。負けてしまって落ち込んで泣いているときに、審査員の方が英語で声をかけてくれたのですが、全然理解できなかったんです。このときに「英語をもっとちゃんと勉強しなくちゃ」と感じたのが、私の本格的な英語学習のきっかけです。

**友重** 僕は0歳のときから、サーファーの両親に連れられて毎年冬に海外に行っていて、小学3年生でオーストラリアの語学学校に、5、6年生でハワイの現地校に通いました。もちろん最初はほとんど英語を話すことができませんでしたが、現地での生活を通して少しずつ慣れました。サーフィンは試合中のアナウンスが重要で、国際試合では英語です。聞き取れないと減点になりますし、コーチとのコミュニケーションも大事なので英語力が欠かせません。

**村上** ブレイキンも同じです。国際大会では大会当日の急なルール変更のアナウンスが英語なので、聞き取れないと困ってしまいます。それに、使用する音楽は英語の曲が多いので、歌詞の意味を理解することで、より審査員に伝わる表現ができるんです。

**友重** 英語の学習方法はありますか？僕はサーフィンの大会動画をよく見ていて、解説が英語なのでそれを学習に利用しています。あとは海外に行ったときに、同年代の人や先輩に積極的に話しかけるようにしています。最初は簡単な挨拶からでしたが、続けていたら相手もやさしく話しかけてくれるようになって、試合の情報交換をしたり、専門用語を教えてもらったりしています。最近は言いたいことが英語で言えるようになってきました。

**村上** 私は一時期、英語学習アプリを使っていたのですが、毎日続けるのが難しくて挫折しました……。いろいろ試してみたこと

ろ、海外のYouTuberのVlog (Video Blog) を見る方法がよかったです。流し見ができるので「勉強している」という感覚があまりなくて、自分に合っていました。おかげで高校生のとき、海外の選手と2人でご飯に行けるまでになったので、成長したと感じました。

**友重** あとは、座学も大切ですよ。僕は最近TOEIC Bridge® Testsを受けたことで、自分の英語力を客観的に知ることができました。思ったよりもライティングができていたのですが、長い文章を理解して答えるのが苦手だとわかったので、勉強の仕方考えやすくなりました。公式教材を使って、これからもっと長文読解を重点的に勉強していきたいです。

**村上** 私もTOEIC Bridge Testsを受けて、日常の会話はある程度できても、説明しようとする単語が出てこない場面が多いとわかりました。今は高校時代に使っていた英単語帳で基礎を復習しつつ、塾講師のアルバイトで中学生に英語を教えており、第三者に説明することで自分の英語理解も整理されています。

**友重** それは英語力がつきそうですね。

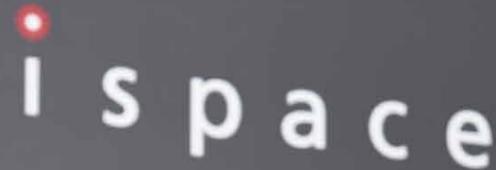
**村上** 英語学習は、人によって合うやり方がありますよね。私は決まった時間に机に向かうよりも、生活の中で自然に英語に触れるほうが長続きしました。2026年夏の大会ではヨーロッパに1カ月ほど滞在する予定なので、また英語に触れる機会が増えそうです。

**友重** 僕は今年、プロジュニアのアジア大会でトップ2を目指してがんばります。選手とのコミュニケーションを大切にして、英語力も競技力も伸ばしていきたいです。

**村上** これからも、それぞれのやり方で英語と向き合いながら、競技にも活かしていけたらいいですね。

# My Career Story

～明るい未来の描き方～




**留学で得た新しい価値観が  
多様性にあふれる  
仲間たちとのものづくりに  
活かされています。**

ispace EVP/エンジニアリング室

**日達 佳嗣さん**

高校卒業後、アメリカおよびカナダにて宇宙工学を学ぶ。NEC勤務を経て2019年に日本発の宇宙ベンチャー企業ispaceへ転職。月着陸船の設計開発に従事する。現在、新たな月探査ミッションの開発統括を担う。

10代の頃に憧れた宇宙。留学、人工衛星の開発、月探査への参画——。  
大きな夢に近づいている日達佳嗣さんに、あゆみをうかがいました。

## 宇宙への情熱から海外へ 得るものが多かった現地の暮らし

中高の頃に通っていた学校には、映画を自由に観られるオーディオ学習室がありました。私は『アポロ13』のような宇宙開発をテーマにした作品に夢中になり、暇さえあれば入り浸っていましたね。特に、管制官と宇宙飛行士の会話がカッコよくて、英語字幕に切り替えて原語で理解することが楽しみでもありました。

高校生の頃には、宇宙工学を学びたいという気持ちが固まって

いました。映画や宇宙開発に惹かれたのは、皆で力を合わせて何かを成し遂げることに大きな魅力を感じていたからだと思います。映画は役者だけではなく、カメラや照明、脚本家や監督が、最高の仕事をして作品にします。宇宙開発は、人々が叡智を結集して挑む最高難度のミッション。そこに自分も加わりたかったんです。

宇宙工学を学ぶなら海外で、と留学を決意。英語は得意でしたが、英語圏の大学の授業についていけるレベルではなかったため、留学のための英語に特化した教材で準備をしました。英語以外でいうと、実は、日本の学校の教育レベルは高く、しっかり学ん

でいれば、海外の大学の入学試験だけでなく、1年生あたりまではかなりのアドバンテージがあります。高校までの学習に助けられて、英語の勉強に集中できたことはありがたかったです。

アメリカのテキサス州立大学アーリントン校へ入学しましたが、授業はハードでした。2年生から3年生への進級時に半分くらいがやめていきます。でもそこまで深刻にならなかったのは、**宇宙工学の分野は特に留学生が多く、多様性に富んでいて、人と比べて落ち込むようなことがなかったからかもしれません。**卒業制作では航空機システムの設計をしました。学生同士で役割分担するのですが、まさに私がやりたかった仲間と協力するものづくり。仕上がりはほめられるようなすごい出来ではありませんでしたが、本当に楽しかったです。やはりこの道を進みたいと思わせる経験でした。

より苦労したのはカナダのトロント大学航空宇宙研究所に進んでからです。レベルが高く、勉強漬けの日々でした。加えてアーリントン校はのんびりした郊外にありますが、トロント大学があるのは大都市。ギャップに慣れるまでには、時間も努力も必要です。ただ振り返ると、アメリカとカナダという、英語圏でも違う文化を持つ国に留学できたことは貴重でした。同じ英語でも、国や地域によって異なる背景を持つことを体感できたからです。

## 宇宙ベンチャー企業へ転職し 新しい仲間と共に宇宙を目指す

カナダから帰国後、NECで約8年間、人工衛星の設計開発に携わり、その後、現在在籍しているispaceに転職しました。ちょうど宇宙開発事業に民間ベンチャーやIT企業が次々と参入し始めた頃で、第1次トランプ政権が、月への回帰を掲げて再び積極的な宇宙政策に乗り出した時期でした。「今、月に挑戦しないと後悔するんじゃないか」そんな気持ちで飛び込みました。やはり私の原点は『アポロ13』なんです(笑)。

月着陸船の開発エンジニアとして採用されましたが、何もかもが手探り状態。優秀な人材はそろっているけれど、経験や慣れ親し

んだやり方がそれぞれ違います。既存の企業が持っている共通のモノサシやモデルケースなどが、何もない状態でした。当然苦労はありましたが、それ自体が大きな刺激にもなりました。

「アイデアは自由だ」と頭ではわかっているけど、企業風土や固定した価値観があるほど「それはリスクが大きいだろう」「前例がない」と無意識のブレーキがかかるものです。新しいメンバーとゼロから考えることで、柔軟な発想がたくさん生まれる。誰もが宇宙に並々ならぬ情熱を持っているから、譲れない部分はありつつも、「最高のものをつくりたい」という気持ちは同じです。

ispaceの共通言語は英語です。最近は自分が話せない言語でもAIツールがあれば、ストレスなく会話でき、会議に参加することもできます。でも私は、自分の言葉で、目の前の人に合わせて話すことが重要だと思います。英語で言葉にする過程が、自分の思考をクリアにし、論理的に思いを伝えるトレーニングになっている気がします。そして、言語を学ぶことは、話せるようになることだけが目的ではなく、その言語を形づくる豊かな文化を知ることもあります。様々なバックグラウンドを持つメンバーが集うispaceで働かなかで、やはり留学で得た経験は大きかったと、改めて思います。

これまで私たちが設計開発した月着陸船は2回、月を目指しました。打ち上げ当日から着陸するまでの約4カ月半は、タスクに追われる日々であり、ときに大きな重圧を感じる日々です。

月着陸船からは画像が送られてきます。自分たちがつくった月着陸船に搭載されたカメラが写す地球は、これまでの歴史のなかで撮影されてきたどの地球の写真よりも美しく、その喜びは何にも代えがたいものです。2度の月面着陸への挑戦は成功には至りませんでした。その過程には多くの成功がありました。仲間と共に成功体験は分かち合いつつ、失敗を冷静に分析し、再び月を目指します。



## 》》 日達佳嗣さんのキャリア「これまで」と「これから」

高校卒業後、アメリカのテキサス州立大学にて宇宙工学を学ぶ

カナダのトロント大学航空宇宙研究所へ進学。レベルの高い授業についていくため、努力を重ねる

帰国後、NECにて人工衛星の設計開発に携わる

2019年、ispaceに転職。若い頃からの夢であった月着陸船の設計開発に従事



2028年  
打ち上げ予定の「ミッション4」。  
開発統括を担い、月面着陸、そしてその先の未来を目指す!

# HOT WORD

## “upcycle” [ˈʌpsaɪkəl]

意味 アップサイクル(創造的再利用)

SDGs(持続可能な開発目標)をはじめ、環境への意識が高まるなか、使い終わった物を再利用する“recycle”、無駄なごみを減らす“reduce”、使える物を繰り返し使う“reuse”の「3R」とともに注目を集めているのが、“upcycle”という考え方です。日本語では「創造的再利用」と呼ぶこともあります。

“upcycle”は、「上方へ」という副詞のはたらきもある“up”と「～を循環させる」という意味を持つ“cycle”を組み合わせた言葉です。不要になった物を原料として再生利用する“recycle”や、元の物によく似た別物を作る“remake”と違うのは、“upcycle”が不要になった洋服や余った木材などに、デザインやアイデアといった新たな付加価値をつけて、まったく異なる物を作り上げる点。アパレルブランドが、余った生地を使って別の製品を作り出す取り組みが有名です。

例文としては、“The brand upcycles leftover fabric into limited-edition jackets. (そのブランドは余った生地を限定版のジャケットにアップサイクルしている)”といった表現ができます。



Illustration: 本田佳世



NOBU(山田暢彦)さん

アメリカ育ちのバイリンガル英語プロ講師。現在NY在住。幅広い受講者に実践的な英語を指導している。TOEIC L&Rスコア990点。

“upcycle”の使い方は  
ウェブで公開中!



## TOEIC® Program Q & A

**Q** TOEIC L&Rではなぜ問題用紙への書き込みをしたり、メモを取ったりしてはいけないのですか?

**A** **カンニング行為を防止し、すべての受験者にとって公平なテストを提供するためです。**

テストの開発元であるETSのグローバルポリシーとして、問題用紙への書き込みやメモを取ることをカンニングや問題の漏洩につながる行為として位置づけ、禁止しています。

また、ETSでは書き込みやメモをせずに解答することを前提に

テストを設計しています。例えばリスニングの会話や説明文などは比較的短く、多くの情報を記憶することは求められません。

これらの理由から、問題用紙への書き込みやメモを取る行為は許可されていません。

TOEIC Bridge L&Rも同様です。



**IIBC** あなたが世界をつなぐ  
あなたと世界をつなぐ  
一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>  
外部からの寄稿や発言は、必ずしも当協会の見解を表明するものではありません。

本誌は公式サイトでもご覧いただけます。

[https://www.iibc-global.org/iibc/activity/iibc\\_newsletter.html](https://www.iibc-global.org/iibc/activity/iibc_newsletter.html)

IIBC NEWSLETTER 検索



【お問い合わせ】  
広報課 [pr@iibc-global.org](mailto:pr@iibc-global.org)

TOEIC L&RはTOEIC Listening & Reading Test. TOEIC Bridge L&RはTOEIC Bridge Listening & Reading Testsの略称。

ETS, PROPELL, TOEIC and TOEIC BRIDGE are registered trademarks of ETS, Princeton, New Jersey, USA, and used in Japan under license. The Eight-Point logo is a trademark of ETS. Portions are copyrighted by ETS and used with permission.